

11月下旬までに23万枚上乗せした。

クイーン高崎店(高崎市緑町)ではDVD、ブルーレイディスク

を、同乗者はいなかた、事故を目撃した男性(44)が

大乗間

初公判カ11日、前橋地裁(山口佳子裁判長)であり、飯

迫る高齢者事故の実相

▷5◁

医師に聞く

30代がピーク

加齢は運転にどう影響するのか。老化や認知症に詳しい群馬大名誉教授の医師、山口晴保さん(64)に聞いた。

認知機能保つ努力を

一年をとると、運転時の判断力はどう変わるか。視力聴力や空間認知力、明暗への順応、見えた物の相対速度を捉える力などが衰える。とっさの判断力は

「高齢運転者の事故の特徴は、場所が交差点、法令では一時不停止、信号無視、優先通行妨害が多い。身体機能の低下に加え、周囲の車の動きを「自分のため」と解釈したり、車や歩行者が

「来ないだろう」と思い込む傾向がある。若者より骨折しやすく、事故になると重大化しがちだ。

「認知症と運転の関係は認知症でも車の鍵を掛ける、アクセルを踏むといった習慣的な動作はできる。ただ、どこに行こうとしていたか、どこに鍵をしまったかという「エピソード記憶」が失われる。視野範囲も狭まり、正面の物にしか注意が及ばず、横からの飛び出しを把握できなくな

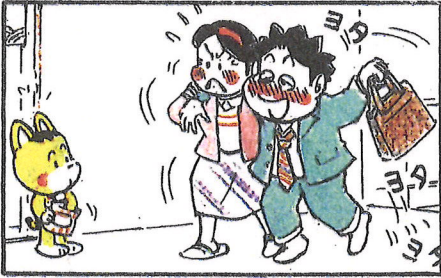
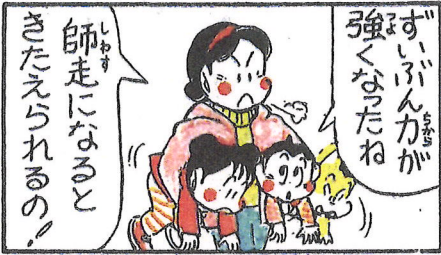
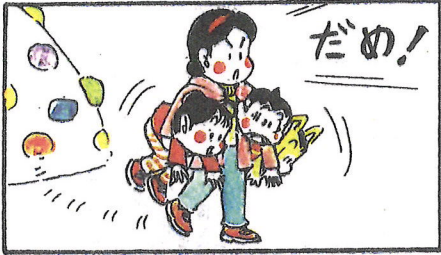
え、「お父さんが事故を起こすと私が困る」など子どもが泣き落としするのも一案だ。

「来春、免許更新時の認知機能検査が強化される。一定の基準を設けて危険と判断すれば、更新させな

きことはまず認知機能を維持する自助努力だ。全身を動かすダンスやジョギング、雑巾がけもよい。運転時に狭い路地を避けたり、見落としの可能性を自覚して注意深く運転することも必要だ。衝突回避など車の安全機能

の発達は光明だ。事故を6割減らすとつうシステムもあり、暴走は減るはず。私も買い替えた。行政や社会に何が求められているか。高齢者が運転しなくても生活できるよう、運転代行や介護ヘルパー、地域ボランティアの支えが不可欠。暴走や事故を防ぐ車の保険料を割り引く制度も一考に値するだろう。(おわり)

この連載は小山大輔、山田祐二、高野聡、稲村勇輝が担当しました。



「身体機能の低下と、経験に基づく思い込みが事故につながる」と説明する山口さん

冬の交通安全運動

冬の県民期間中(11月12日～12月12日)の交通事故による死者(概数)

冒頭陳述が7月12日未明に追いつめられた。むべき点が

ま扱ったと、被告が恨み、行に及んだと、方的に人命を重大」と指摘はみかじめにも暴言やいたとし「嬉に追い詰めらむべき点が